



# 2018年3月期第1四半期決算 プレゼンテーション資料

2017年7月  
大阪ガス株式会社

# I. 18.3期第1四半期実績

**インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています** : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。 <http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

**「見通し」に関する注意事項** : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

**ガス販売量に関する注記** : 全て、基準熱量を45MJ/m<sup>3</sup>として、表記しています。

**連結ガス販売量に関する注記** : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

本日は、お忙しいところ、当社の電話会議説明会にご参加くださりまして、ありがとうございます。

ただ今から、2018年3月期 第1四半期決算について、弊社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、簡単にご説明させていただきます。

# 18.3期第1四半期決算のポイント

## 対前年比較

### ■ 概況(連結)

売上高	電力事業での販売量の増加等により、 前年比6.0%(164億円)増収の2,927億円
経常利益	スライド差損益の減少によるガス事業粗利の減少等により、 前年比36.3%(146億円)減益の257億円 スライド差損は70億円(前年は145億円のスライド差益)

### ■ ガス販売量(個別)

家庭用	春先の気水温が低く推移し、給湯・暖房需要が増加したこと等により、 前年比4.7%(23百万m <sup>3</sup> )増加の524百万m <sup>3</sup>
業務用等	設備稼働の増加や需要開発が進んだこと等により、 前年比2.9%(43百万m <sup>3</sup> )増加の1,541百万m <sup>3</sup>

### ■ 電力販売量(連結)

国内電力 販売量	卸・小売の販売量が共に増加したことにより、 前年比34.9%(557百万kWh)増加の2,150百万kWh
-------------	--

資料の3ページをご覧ください。こちらのページに決算のポイントをまとめております。

2018年3月期 第1四半期は、増収・減益の決算となりました。

売上高は、電力事業での販売量が増加したこと等から、前年と比べて6.0%増収の2,927億円となりました。

経常利益は、スライド差損益の減少により、ガス事業粗利が減少したこと等から、前年と比べて36.3%減益の257億円となりました。

なお、スライド差損は70億円となりました。

ガス販売量について、家庭用は、春先の気水温が低く推移したこと等から、前年を4.7%上回る5億2400万立方メートルとなりました。

業務用等は、お客さま設備の稼働が増加したことや需要開発が進んだこと等から、前年を2.9%上回る15億4,100万立方メートルとなりました。

連結の電力販売量については、卸・小売の販売量が共に増加したことにより、前年を34.9%上回る21億5,000万kWhとなりました。

# 18.3期第1四半期ガス・電力販売実績

## ■ ガス販売量

45MJ/m <sup>3</sup>	A. 18.3期1Q	B. 17.3期1Q	A-B	(A-B)/B(%)
ガス供給件数(千件) *	6,129	6,210	-81	-1.3%
個 新設工事件数(千件)	24	22	+2	+10.5%
家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	29.4	28.0	+1.4	+4.9%
別 家庭用	524	501	+23	+4.7%
業務用等	1,541	1,498	+43	+2.9%
ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )	2,065	1,999	+67	+3.3%
連結ガス販売量	2,076	2,009	+67	+3.3%

\*今年度より、お客さま数(取付メーター数)からガス供給件数に変更しています。ガス供給件数は、取付メーター数から空家などの閉栓中メーター数、他社のガスをお使いの方を除いた、現在当社のガスをご使用中のお客さまの数です。

## ■ 電力販売量(連結)

	A. 18.3期1Q	B. 17.3期1Q	A-B	(A-B)/B(%)
小売	360	82	+278	+339.6%
卸等	1,791	1,512	+279	+18.4%
国内電力販売量(百万kWh)	2,150	1,594	+557	+34.9%

4

 OSAKA GAS  
GROUP

資料の4ページに、ただ今ご説明しました ガス販売実績、電力販売量実績をまとめておりますので、ご確認ください。

また、プレゼンテーション資料には記載しておりませんが、昨年4月にサービスを開始いたしました、低圧電力のお客さま向け供給件数は、6月末時点で37万5千件となりました。

また、7月26日時点で、供給件数は約40万件となっております。

なお、低圧電気供給件数につきましては、数値詳細資料に記載しておりますので、後ほどご確認ください。

# 18.3期第1四半期実績 I

連結:億円、( )内は連単倍率

	A. 18.3期1Q	B. 17.3期1Q	A-B	(A-B)/B(%)	備考
売上高	(1.26) 2,927	(1.28) 2,763	+164	+6.0%	電力販売量の増加等
営業利益	(1.42) 237	(1.17) 384	-147	-38.3%	ガス事業粗利の減少等
経常利益	(1.14) 257	(0.86) 403	-146	-36.3%	ガス事業粗利の減少等
四半期純利益*	(0.99) 174	(0.74) 269	-94	-35.3%	

\* 親会社株主に帰属する四半期純利益

	A. 18.3期1Q	B. 17.3期1Q	A-B
スライド差損益 億円	-70	145	-216
原油価格 \$/bbl	53.4	40.9	+12.5
為替レート 円/\$	111.1	108.0	+3.1

18.3期1Q原油価格実績は、6月上中旬値までの平均。

資料の5ページに、決算数値をお示ししていますので、ご確認ください。

売上高は、電力販売量の増加等により、前年と比べて164億円増収の2,927億円となりました。

スライド差損益の減少によって、ガス事業粗利が減少したこと等により、営業利益は、前年と比べて147億円減少の237億円、経常利益は、前年と比べて146億円減少の257億円となりました。

# 18.3期第1四半期実績 II

連結:億円	A. 18.3期 1Q末	17.3期 1Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	18,227	17,365	18,865	-638	流動資産の減少等
自己資本	9,660	8,967	9,619	+41	
有利子負債	5,208	5,527	5,406	-198	
在籍人員(人)	21,221	21,137	20,762	+459	
自己資本比率	53.0%	51.6%	51.0%	+2.0%	
D/E比率	0.54	0.62	0.56	-0.02	

連結:億円	A. 18.3期1Q	B. 17.3期1Q	A-B	備考
設備投資	167	154	+13	自由化システム等
減価償却費	215	206	+9	
フリーキャッシュフロー	-143	88	-231	

資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、資料6ページの通りです。  
設備投資については、自由化システムへの投資が増加したこと等により、  
前年を13億円上回る167億円となりました。

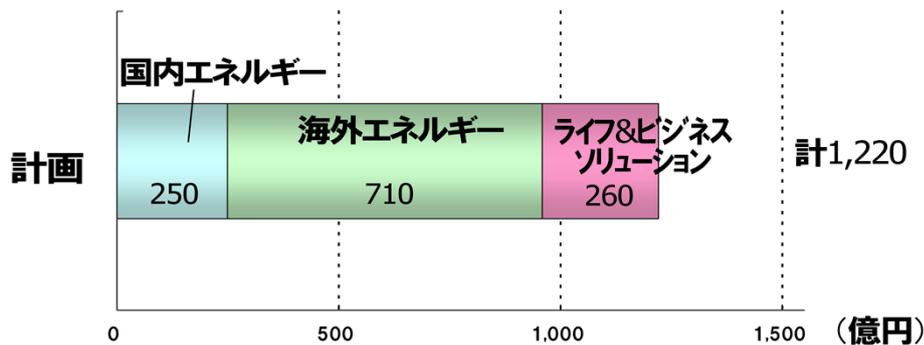
# 18.3期成長投資実績

## ■ 18.3期1Qの投資実行額は113億円(年間計画の9%)

- ・国内エネルギー：30億円 (LPG事業, 電力事業など)
- ・海外エネルギー：43億円 (上流事業, 中下流事業など)
- ・ライフ&ビジネスソリューション：39億円 (都市開発事業など)

投資実行額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

### 18.3期の成長投資(計画)



資料の7ページに、成長投資実績をお示していますので、ご確認ください。

成長投資実行額は113億円で年間計画に対して9%の進捗です。  
内訳は、国内エネルギー30億円、海外エネルギー43億円、  
ライフ&ビジネスソリューション 39億円となります。

# 18.3期第1四半期セグメント別実績

セグメントを見直し、18.3期より次の4セグメントを新たに設定いたしました  
 「国内エネルギー・ガス」「国内エネルギー・電力」「海外エネルギー」「ライフ&ビジネス ソリューション」

単位:億円	売上高		セグメント利益*		備考
	18.3期 1Q	17.3期 1Q**	18.3期 1Q	17.3期 1Q**	
国内エネルギー・ ガス	2,276	2,214	173	358	売上:LNG販売量の増加等 利益:スライド差損益の減少等
国内エネルギー・ 電力	282	179	21	6	売上:電力販売量の増加等 利益:電力販売量の増加等
海外エネルギー	44	30	7	-23	売上:LNG船事業での稼働の増加等 利益:フリーポートPJ関連等で増加
ライフ&ビジネス ソリューション	444	468	28	29	売上:都市開発事業での販売減等 利益:概ね前年並み
消去又は全社	-120	-129	7	6	
連結	2,927	2,763	238	377	

\* セグメント利益=営業利益+持分法投資損益      \*\* 17.3期1Q実績を18.3期より設定した新セグメントで試算した数値

資料の8ページにはセグメント別実績を掲載しておりますので、ご確認ください。

9ページ以降には、売上高・経常利益について、前年差異の要因分析資料等を付けておりますので、後ほどご覧下さい。

なお、2018年3月期の業績見通しにつきましては、4月発表時から変更はありません。

以上で、2018年3月期 第1四半期決算についてのご説明を終わらせていただきます。

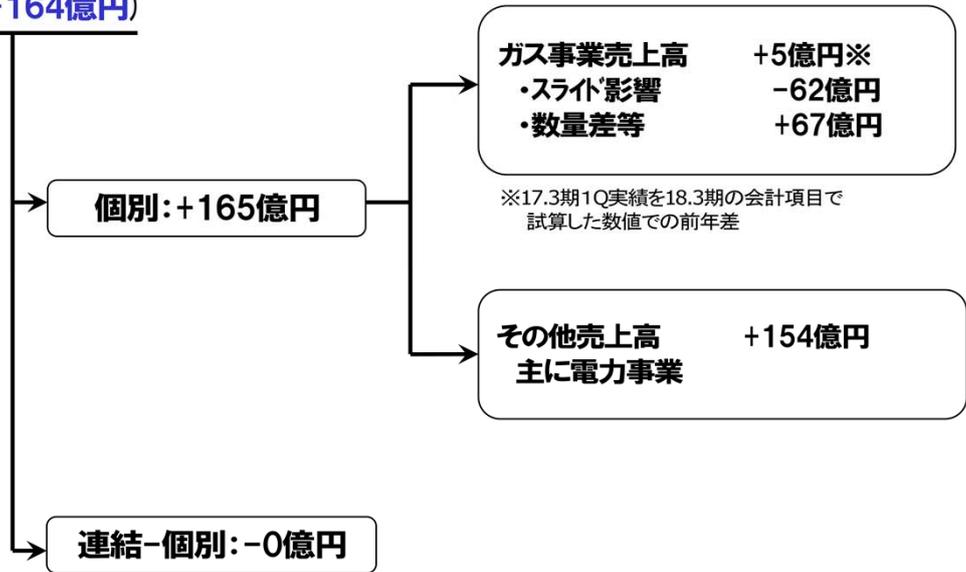


## II. 参考資料

# 18.3期第1四半期の売上高差異(対前期)

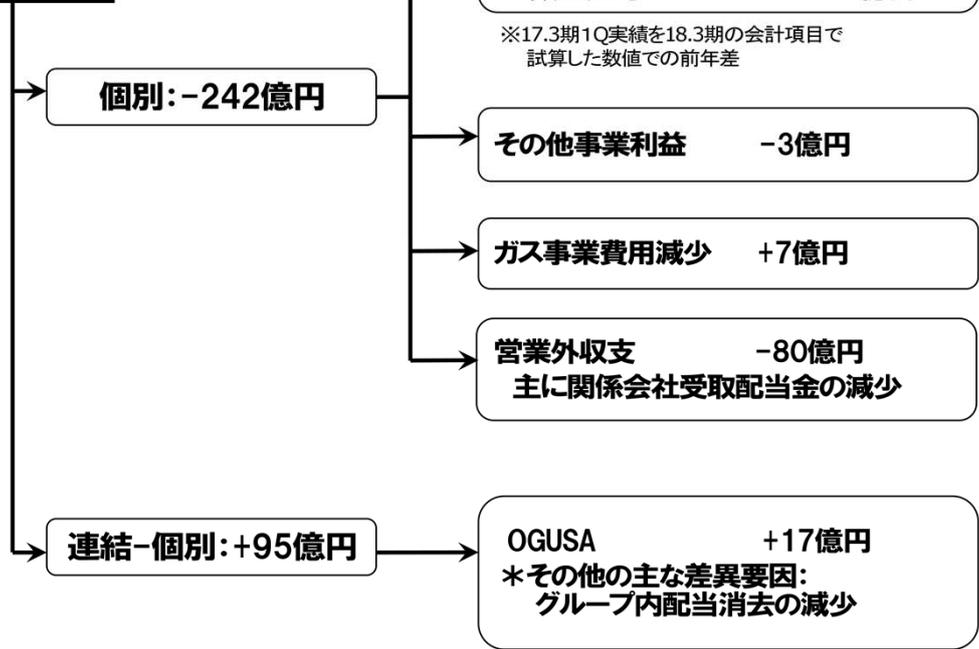
17.3期1Q → 18.3期1Q (差異)

2,763億円 2,927億円 (+164億円)



# 18.3期第1四半期の経常利益差異(対前期)

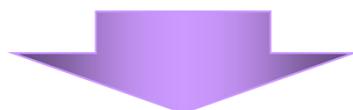
17.3期1Q → 18.3期1Q (差異)  
 403億円      257億円 (-146億円)



# 家庭用 ガス販売

## 18.3期1Q実績

	対前期	備考
調定件数	-0.5%	
気水温影響	+6.9%	平均気温19.8度(対前期-0.5度)
その他	-1.8%	ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等
合計	+4.7%	



## 18.3期見通し

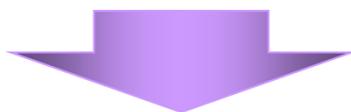
4/26公表の見通しから変更なし

- 平年気温を前提とすること等により、上期を中心に前年より気温が低く推移すると想定し、前年比+0.4%、8百万m<sup>3</sup>増の2,111百万m<sup>3</sup>を見込む。

# 業務用等 ガス販売

## 18.3期1Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.5%	熱需要を中心とした開発
気水温影響	+0.5%	
設備稼働増減等	+2.2%	
個別要因	-1.6%	特殊要因によるお客さま先での減少
その他	+0.3%	検針日数の影響等
合計	+2.9%	



## 18.3期見通し

4/26公表の見通しから変更なし

- 発電設備の自社電源化に伴い、ガス販売のカウント方法を変更する影響などを織り込み、前年比-8.4%、552百万m<sup>3</sup>減の6,008百万m<sup>3</sup>を見込む。

# 年度見通しに対するリスク要因

## ■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。

## ■ 原油価格

- LNG価格は原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、今年度第2四半期以降の経常利益は-13億円変動する可能性がある。

## ■ 為替レート

- LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、今年度第2四半期以降の経常利益は-8億円変動する可能性がある。

## ■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

## ■ 金利

- 金利+1%の変動に対して、18.3期の連結営業外費用が年間-4億円変動する可能性がある。

### III. 参考資料 (2)－18.3期見通し

**4月発表時の見通しから、変更ありません。**

# 18.3期ガス・電力販売見通し

## ■ ガス販売量

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 18.3期 見通し	B. 17.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個別	家庭用	2,111	2,103	+8	+0.4%
	業務用等	6,008	6,560	-552	-8.4%
ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )		8,118	8,662	-544	-6.3%
連結ガス販売量(百万m <sup>3</sup> )		8,150	8,694	-544	-6.3%

## ■ 電力販売量(連結)

(百万kWh)		A. 18.3期 見通し	B. 17.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
国内電力販売量		10,303	8,948	+1,355	+15.1%

2018年3月期のガスおよび電力販売見通しを、こちらにまとめております。

連結ガス販売量は、前年を6.3%下回る、81億5,000万立方メートルを見込んでいます。

国内の連結販売電力量は、前年を15.1%上回る103億3百万キロワットアワーを見込んでいます。

# 18.3期見通し I

( )内は連単倍率

連結:億円	A. 18.3期 見通し	B. 17.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
売上高	(1.28) 13,445	(1.31) 11,838	+1,606	+13.6%
営業利益	(2.38) 665	(1.76) 972	-307	-31.6%
経常利益	(1.83) 640	(1.37) 962	-322	-33.5%
当期純利益*	(1.57) 425	(1.12) 612	-187	-30.6%
SVA**	175	333	-157	-47.4%
スライド差損益 億円	9	137	-128	
原油価格 \$/bbl	55.0	47.5	+7.5	
為替レート 円/\$	115.0	108.3	+6.7	

\* 親会社株主に帰属する当期純利益

\*\* SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

こちらには、収支などの見通しをまとめておりますのでご確認ください。

前提となる原油価格につきましては、1バレルあたり55ドル、  
前提となる為替レートは、1ドルあたり115円としています。

## 18.3期見通し II

連結:億円	A. 18.3末見通し	B. 17.3末実績	A-B
総資産	18,429	18,865	-436
自己資本	9,455	9,619	-164
有利子負債	5,433	5,406	+26
在籍人員(人)	21,374	20,762	+612
自己資本比率	51.3%	51.0%	+0.3%
D/E比率	0.57	0.56	+0.01
設備投資	925	886	+38
減価償却費	859	862	-2
フリーキャッシュフロー	819	1,005	-185
ROA	2.3%	3.3%	-1.0%
ROE	4.5%	6.6%	-2.0%
EBITDA	1,570	1,884	-314
EPS (円/株)	102.2*	29.5	72.7
BPS (円/株)	2,273.1*	462.5	1,810.6

\* 株式併合影響を  
考慮して算定

フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出

18

 OSAKA GAS  
GROUP

資産・負債項目や、主な財務指標の見通しは、ご覧の通りです。

設備投資は、前年を38億円上回る925億円を見込んでいます。

ROAにつきましては2.3%、ROEにつきましては4.5%を見込んでいます。

# 18.3期セグメント別見通し

セグメントを見直し、18.3期より次の4セグメントを新たに設定いたしました

「国内エネルギー・ガス」「国内エネルギー・電力」「海外エネルギー」「ライフ&ビジネス ソリューション」

単位:億円	売上高		セグメント利益*		備考
	18.3期 見通し	17.3期 実績**	18.3期 見通し	17.3期 実績**	
国内エネルギー・ ガス	10,195	9,112	290	552	売上:ガス販売単価の上昇等 利益:スライド差益の減少等
国内エネルギー・ 電力	1,670	1,075	140	162	売上:電力販売量の増加等 利益:販売価格の下落等
海外エネルギー	250	226	40	80	売上:豪州LNG PJにおける増加等 利益:フリーポートPJ関連等で減少
ライフ&ビジネス ソリューション	2,085	2,083	190	186	売上・利益: 概ね前年並みで推移
消去又は全社	-755	-659	22	9	
連結	13,445	11,838	682	990	

\* セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

\*\* 17.3期1Q実績を18.3期より設定した新セグメントで試算した数値

以上